

●●講中を訪ねて●●

東村山市久米川講中

講元 内海 浩



私達の所在地は東京都東村山市久米川町と称し、久米川町は市内に十三町ある中の一町で、当市は東京の多摩地区北東部に位置し、東に清瀬市、南に小平市、西に東大和市に隣接し北側は埼玉県所沢市に接して、東西南北それぞれ五キロ程、人口十五万人余りの市です。古くは畑作を中心とした農村でしたが戦後全国各地から移り住んだ人達が増え、現在は都心に通勤する人々の居住地となりました。

当然のこと、農地も減少し戦前からの住人は市人口に占める割合はごく僅かとなりました。けれども、古くからの伝統と習慣、そして神仏を崇敬する心は今も継承され御嶽神社の神を崇敬する心は講と言う組織で続けられています。

久米川講中は、久米川町内を五つの地区に分け行員数は総勢約百三十名程で各地区に二名程の世話人を選任しています。講の年中行事は、年一回四月十三日を代参日と定め、各地区の当番社十名程が担当御師北島道宣氏のご指導のもとに本殿に参拝し、神符を賜り講員各戸にお届けしております。さらに年末には北島御師様が御來町され講員宅を訪問し、新年の平和と講員の健康・繁栄を祈って新しい神符を付与しています。

又、町の鎮守、熊野神社の境内には小さいながら御嶽神社の分社が鎮座されていて、年末三十一日には周囲の清掃、新しい注連縄を飾り、元旦には熊野神社の元旦式典に併せて新しい年の平和と安全を願って参拝をしています。

講中の組織は時代の変化とともに若干変わってきており、かつては二百名近い講員の時代もありましたが、家庭環境の変化や高齢化で講員が減少したことは残念であり、特に若い人達の神仏への崇敬心が希薄になり、新たに講の仲間入りをする人がいなくなったことは残念であり寂しいかぎりです。

今後とも現有組織を守り続けるとともに、次世代の人達が神々を敬う心を高め、良き日本の心を守り続けたいと願っています。

講中名 久米川講中
所在地 東京都東村山市
講員数 約百三十名



日の出祭

数多くある御嶽神社の祭典の中で最も賑やかな祭典が、5月8日に斎行される「日の出祭」だ。御岳平から山頂にある神社まで、御師たちが奏でる雅楽と共に、鎧武者や神輿、そしてかわいい衣装を纏った稚児たちの大行列が続く。私はここ3年間「日の出祭」のようすを撮影しているが、毎年見事な晴天に恵まれている。神さまが歓迎してくれている印のようで、いつも清々しい気持ちでシャッターを切っている。また、前夜の宵宮は、「日の出祭」の華やかさとは違い、厳肅な雰囲気だ。この時は、自然と心が引き締められ一枚一枚大切に記録していく。

(写真・文 鶴巻 育子)



式年大祭 記念事業経過報告

平成二十九年式年大祭に向け、漆塗り替え工事は順調に進捗致しております。今年秋頃には完成の予定です。御参拝の皆様にはご不便とご迷惑をお掛け致しておりますがご理解を戴き、今後も皆様より賜りましたご厚情を糧にこの記念事業の完成に向け、鋭意努力をして参る所存でございます。また引き続き記念事業資金のお願いをするところがございます。何卒宜しくご高配賜りますようお願い申し上げます。



現在漆塗り作業は、幣殿・拝殿の室内を行っております。彩色は冬期間中 工房に送り作業が進められています。

日の出祭

5月7日 宵宮 午後8時
5月8日 本祭・行列出発 午前10時
供奉料 三千元・五千元・一万元以上
鎧武者・稚児 供奉料無料
 鎧持参可能

※詳しくはお問い合わせ下さい。